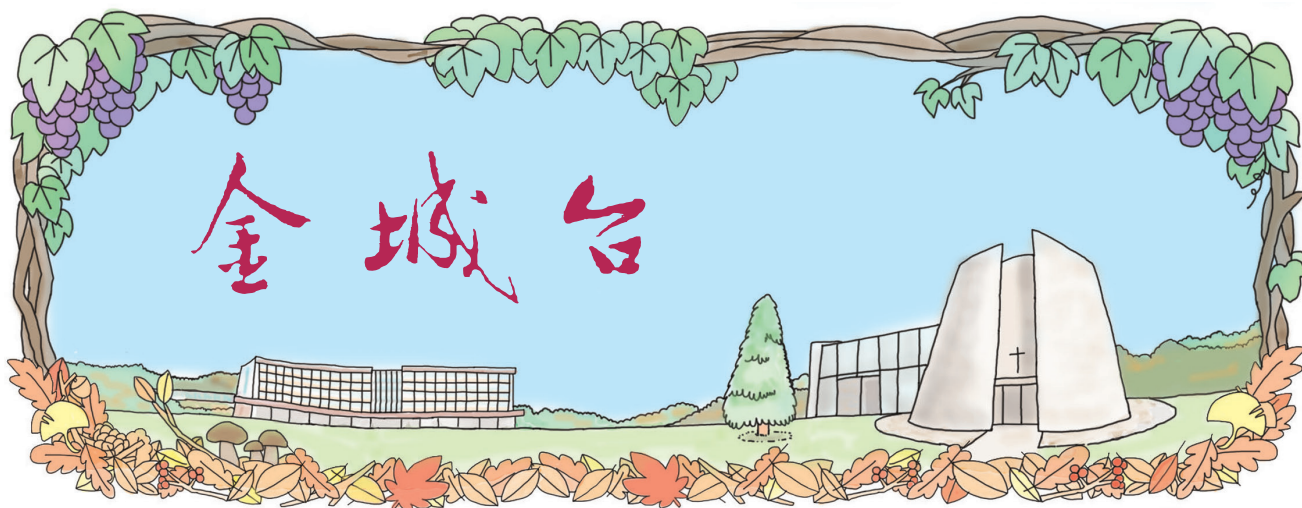




巻頭言

「不確実性の向こう側にゆだねて」

「二人のことでくじを引くと、マティアに当たったので、

この人が十一人の使徒の仲間に加えられることになった」(使徒言行録1:21-26からの抜粋)

学院宗教総主事

キリスト教文化研究所教授

なぐね
洛雲海



聖書には常識では信じ難いことがいろいろ記されています。十字架刑で殺されたイエス・キリストが復活したこと、復活したキリストが弟子たちの「見ているうちに天に上げられ」たことなど、さまざまです。しかし、キリストの弟子たちは、それらを自ら体験した者として、命賭けで証言する者となりました。

その証言された事柄を、これまでおびただしい数の人々が信じてきました。そればかりか、信じたことを自ら証言する者ともなりました。その中に金城学院を創立したアーニー・ランドルフ宣教師、彼女の活躍を支援したロバート・マカルピン宣教師、金城の発展に大きく貢献したエラ・ヒューストン宣教師、そして物心両面で金城を支えたスマイス宣教師夫妻たちが含まれます。皆、聖書に記された証言を信じ、信じたことを伝えるためにはるばる名古屋に来て、神を畏れ人を愛する女性を育成するために、人生の貴重な時間を用いられたのでした。

しかしながら、聖書の証言を信じるということは、単純には理性的とはいえないところがありましょう。信じるということは、私たち人間の理性や知性の壁を超えた向こう側、すなわち目には見えない神への信が関わるからです。それは神から与えられる自己の外からの恵みであって、科学的に証明された事柄を理性によって受け入れるということとは違うのです。

神を信じイエス・キリストを信じるということは、理性によって判断される不可能性や不確実性を越えた神的出来事です。信仰は多くの知識や人間的努力をもって獲得できるものではありません。それは論理や理屈によって得られるというようなものではなく、キリストの言葉を聞くことによって神から与えられる恵みなのです。金城学院は、この恵みにあずかった人々によって建てられ継承されてきた学院です。このことを心深く覚えたいと思います。

さて、常識では信じ難いことを信じる者となり、信じたことを証言して生きた人たちの様子を暗示する象徴的な出来事が聖書に記録されています。復活したイエス・キリストが

天に上げられてから間もなくのことです。十二人いた使徒たちは十一人となっていました。そこで、使徒ペトロの提案により新たに「主の復活の証人となるべき」使徒一人を選ぶことにしました。問題はその選び方です。どうしたでしょうか。人々は候補者二人を立てた後、神に祈ってから「くじ」を引いたのでした(使徒1:26)。

人々は、使徒たちの仲間に加わるにふさわしい人物を決めるとき、最終的には試験のようなもので評価判断せず、神への祈りをもって、自分たちの手の届かないところに結果をゆだねました。「くじ」で決めるとは、事柄の結果を人間の知性や理性による評価判断ではなく、人知の及ばないところにゆだねるということです。使徒たちは使徒の選任という重大な局面で、最終的には不確実性の向こう側に、すなわち「くじ」という仕方神に結果をゆだねたのでした。

もちろん、すでに古代オリエントや古代ギリシャまた古代ローマでも、役職者や公職者の選定にくじ引きをしていたことが知られていますし、日本でも公職選挙法第95条2項において、当選人を定める際に得票数が同じ場合は「くじ」で定めることとされています。この方法は最も公平平等かつ民主的な方法として各種団体でも広く適用されています。しかし、使徒たちはただ「くじ」を引いたのではなく、神への祈りをもって「くじ」を引いたのでした。

神を信じイエス・キリストを信じる人は、自分の理性や知性の限界を自覚し、その壁を突破して生きようとしません。それは不確実性の向こう側に自分と世界とをゆだねて生きるという生き方です。キリストの弟子たちは、まさにそのように生きたのでした。金城学院の設立と発展に献身された宣教師の方々もそうでしょう。理性や知性の大切さは申すまでもありません。しかし、その限界を自覚し、祈りをもって不確実性の向こう側に自らと世界とをゆだねて生きることをこそ大切にしたいと思ひます。必ずや驚くべき恵みに満ちた世界が開かれると信じます。

私の教会

日本基督教団 刈谷教会

日本基督教団刈谷教会 牧師

くり はら たけ し
栗原 武士



刈谷教会は、かつて刈谷藩の中心として栄えた刈谷城の城下町だったエリアにあります。現在、城跡は亀城公園となっており、教会はその近くの細い坂道の途中にあります。坂を上り切ると、徳川家康の母、於大の方の屋敷跡（椎の木屋敷跡）があり、その庭園は近所の憩いの場になっていて、教会学校の行事でも利用させていただいています。



最寄り駅は、名鉄三河線の刈谷市駅（徒歩13分）になります。

刈谷教会は、1954年に刈谷市や碧南市、高浜市に

住むキリスト者が、この地域での福音宣教を願って祈り、その祈りが聞き入れられて起こされた教会です。

教会学校は、朝9時半から礼拝を行っており、平均して6名ぐらいの参加者が与えられています。分級の時間には、話し合いや、ゲーム、工作などを行い、聖書の学びや、交わりを深めています。金城学院中学校・高等学校の方々も時折、出席してくださっています。

主日礼拝は10時半から始まります。年に数回、聖歌隊を組織して賛美をささげています。平日の行事としては、「御言葉と祈りの集い」を第2・第4水曜日に開き、聖書の学びと、祈りの交わりを行っています。その他に、バザーや、愛餐会、平和学習会、夏の集い、秋の集いなどを行っており、世代を超えた交わりの時を持っています。最近では、少子高齢化で、行事の参加者や奉仕者が減ってきましたが、教団の近隣教会だけでなく、他教派の教会にも参加を呼びかけたところ、新しい交わりが生まれ、その恵みは広がっています。神様が示された愛と恵みの豊かさを、教会の歩みを通して証ししています。この教会の交わりに、ぜひご一緒いただければと思います。皆様のご来会をお待ちしています。



日本基督教団 刈谷教会
〒448-0845 刈谷市銀座 6-68

学問と信仰

誰の側に立つのか

人間科学部 教授

かみ むら ち ひろ
上村 千尋



私は、非行少年への福祉的アプローチを主要な研究テーマとしており、20年以上スーパーバイザーという立場で児童自立支援施設を定期訪問しています。この施設の源流は、「感化事業の父」と評される留岡幸助（とめおかこうすけ、1864-1934）が設立した「家庭学校」です。留岡はキリスト教の信仰に基づき、「つまずいた子どもたちに必要なのは、家庭（愛情）と学校（教育）である」という理念のもとに、子どもたちの育て直しに尽力しました。その後、我が国の感化事業は、戦後の児童福祉法の制定により、「教護院」そして今日の「児童自立支援施設」と名称を変え現在に至ります。近年は入所児童のおよそ7割に被虐待経験があり、「加害性」と同時に「被害性」を併せ持つ子どもなど、非行少年の背景が複雑であることがうかがえます。

この子どもたちの「生い立ち」と「生きづらさ」に焦点を当て、支援や制度のあり方を問い直すことが、私の研究の原点であり基盤です。そして、子どもたちの立ち直りや「可塑性」を信じること、「子どもは尊厳と権利をもった存在である」という子ども観は、私自身の精神的基盤である信仰と深く結びついています。

一方で、現実の中で苦悩する子ども（当事者）について、「どこまで語り得るのか」と葛藤したり、立ち位置を模索したりすることもあります。なぜなら、表現の主体となり得る研究者は、子ども（当事者）よりも特権的な位置にあり、さらには、非行少年の支援について語るとき、その背景には、私では語ることでできない被害者の痛みや現実が存在するのも事実だからです。

だからこそ、現場を訪れる際には、倫理的ジレンマや子どもたちが抱える課題に真摯に向き合うこと、そして子どもたちと生活を共にし、自立への道筋を支える現場職員から学ぶ姿勢を大切にしたいと思っています。その姿勢を基軸とすることにより、客観的・学術的な視点を持った実践研究が可能となると考えています。



「キリスト教の時間」講演要旨



日 程：2026年6月5日(金) 15時35分～17時15分(開場15時20分)

場 所：アニー・ランドルフ記念講堂

講 師：^{なが はら いく こ}永原 郁子 先生(公益社団法人小さないのちのドア 代表理事)

略歴：1993年、マナ助産院を開業、地域母子保健に携わる。2000年、性教育グループ「いのち語り隊」を立ち上げ、幼稚園から保護者や教職員に向けて、年間約150か所で語る。2018年に、予期せぬ妊娠相談や住む所がない妊婦の生活・自立支援を行う「小さないのちのドア」をスタート。神戸市立看護大学臨床教授等、後進の育成にも携わる。TV出演…TBS「情熱大陸」NHK「こころの時代」他。著書…「ティーンズのための命のことがわかる本」他。受賞歴…厚生労働大臣賞、法務大臣感謝状など。

演 題：頼る人のない妊産婦支援 ～主のお導きのままに～

聖書箇所：マタイによる福音書 25章32～40節

「そして、すべての国の民がその前に集められると、羊飼いが羊と山羊を分けるように、彼らをより分け、羊を右に、山羊を左に置く。そこで、王は右側にいる人たちに言う。『さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。』すると、正しい人たちが王に答える。『主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物を差し上げ、のどが渇いておられるのを見て飲み物を差し上げたでしょうか。いつ、旅をしておられるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたでしょうか。いつ、病気をなさったり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたでしょうか。』そこで、王は答える。『はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』」

公益社団法人小さないのちのドアでは24時間体制で予期せぬ妊娠相談を受けている。一日に20件から70件の相談を受ける。Z世代の相談がない日はない。また住むところがない妊産婦の生活自立支援を行っている。

このような仕事上の経験から皆さんにお聞き頂きたいことは、たった一度のかけがえのない人生を大切に生きてほしいということである。肉体のいのち(神様につながる霊のいのちではなく)は誕生から死であるが、大切なポイントは自立である。自立後の人生は自身の選択と決断で作りに上げていく。そしてさらに大切なことは結婚ではないだろうか。共に生きる相手によって人生の幸せ度はかなり異なってくる。

まずは恋愛において、しっかりと相手を選んでほしい。一生共に生きる相手として、考え方、価値観、人の心にどれほど寄り添えるか、いのちが喜ぶ言葉を日常的に使う人なのか(悪い言葉で聖霊を悲しませてはいけない)、なによりも本当にあなたの事を愛しているのかということである。愛は相手の幸せを一番に思うことである。妊娠を望んでいないなら、妊娠の可能性のある行為は愛ではない。また、デートDVや同意のない性行為、性暴力は心と体を傷つける。決して愛の行為ではない。

私共が関わる相談の中には新生児の殺害遺棄事件に繋がりがねないケースも少なくない。生まれたその日に殺害される赤ちゃんが後を絶たない。加害者のほとんどが実母である。これは相談することで防げる事件であり、守ることができる命である。

またいのちを生み出す素晴らしい行為でうつし合う病気、性感染症は数多くある。無症状であることも、一生、治療

の必要な性感染症もある。このような知識をもって人生を構築してほしい。

聖書に目を向けたい。創世記1章には性は神様がお創りになったことが書かれている。そして子孫を繁栄させる性に対して主は最高の評価をしておられる。しかし創世記2章には「男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる。」と、自立、結婚、性生活の順序が明記されている。結婚前の行為は罪なのである。聖書は神様から私たちへのラブレター。私たちが幸せに生きる上で大切なことがちりばめられている。この聖書の言葉に耳を傾けたい。

小さないのちのドアの働きは2018年にスタートしたが、当初、国に制度がないため全て民間の力でいのちを守ってきた。ところが2024年にこれらの働きが法定事業となったのである。主のお導きを感じずにはおれない8年間であった。

小さないのちのドアに訪れる女性は、衣食住を事欠いて、人生のどん底の状態で見られる。「よくいらしてくださいました」と迎える時、いつも、「はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」(マタイによる福音書25:40)という聖書の御言葉が心に押し寄せてくる。



「キリスト教の時間」に出席して（学生の感想）

私は今回、講師の永原郁子氏の講演を聞いて気づいたことが2つある。

まず1つ目は、望まない妊娠をした人や頼る人がいない妊産婦への支援の大切さだ。講演会の中で、新生児遺棄が毎年多く起きており、また多くの事件で若い母親が逮捕されているということを知った。そしてこのような事件の背景には、周りに頼る人がおらず打ち明けられずに事件へと発展してしまうことがある。そのような妊産婦や小さな命を守るために尽力しているのが、永原氏がスタートさせた「小さいのちのドア」である。講演会の中で、相談をしたことで自分が産んだ子を他の人に育ててもらおうという決断をできたという体験談を聞いた。しかし相談を親身になって聞いてくれる人がいるというその事実は、大きな心の支えになると気づいた。

2つ目の気づきは、自立した後の幸せは自分の意識の持ち方で形作ることができるということだ。「こういうわけで、男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる。」（日本聖書協会『聖書 新共同訳』創世記2：24）と聖書にあるように、人が自立した後は自分自身で幸せな人生を築くこと、自分の意志で選んでいくことができると講演会を通じて知った。人に自分のことを話すことで、自分のことを理解してもらうことができたり、相手の話を聴くということにより深く相手のことを知ることができたりするというのも、自立後の自分の人生をよりよくしていくために必要なことだ。私が講演会の中で特に印象に残った言葉は「いのちが喜ぶ言葉を使う」というものだ。私たちは日常で多くの言葉と接しているが、その言葉がどのように作用するのかということを考えながら話すことは多くない。私の人生を少しずつ豊かなものにするために、まずは言葉選びに気を遣うという行動面から変えていきたいと思った。

愛されるために生まれてきたという私たちが、また同じように愛するべき小さいのちが幸せな人生を歩めるように、私は小さな命や母親を救っていくことに尽力する人々を支え、自分の行動に意識や責任をもって生きていきたい。

文学部日本語日本文化学科1年（当時）ふかつ かずき 深津和紗

私が永原さんの講演で最も感銘を受けたことは、自分よりも幼い、または同年代の女の子が、性に関する問題によって深刻な悩みを抱えている現実と、その人たちを支える「小さいのちのドア」の活動です。

講演では、「妊娠反応が陽性でした。でも彼と連絡が取れません。」「ネットで知り合った人と性交渉をして、妊娠したかもしれません。」「昨日に戻してほしい。」など、実際に寄せられる相談が紹介されました。SNSやゲームを通じて知り合った相手と会い、望まない妊娠をしたり、妊娠を伝えた途端に連絡を絶たれたりするケースが多いことを知りました。また、親にも相談できず、一人で不安や苦しみを抱え、生きることさえつらいと感じるほど追い詰められている若い女性がいることに衝撃を受けました。これまで知る機会がなかっただけに、深く考えさせられました。

私はこれまで、このような相談窓口は、実際には相談しづらく、利用する人は少ないのではないかと考えていました。しかし、「小さいのちのドア」では、若者にとって身近なLINEを活用し、24時間365日相談を受け付けています。さらに、助産師だけでなく、医師や心理士、福祉職、弁護士など、多くの専門職が連携し、一人ひとりに寄り添って支援していることにも感銘を受けました。「助けて」と言える場所があることは、多くの命や人生を救うことにつながると感じました。

また、永原さんの「本当の愛とは、今だけではなく、相手の一生の幸せを考えること」という言葉も印象に残っています。妊娠すれば困る状況であるにもかかわらず、軽い気持ちで性行為をすることは、本当の意味で相手を大切にしているとは言えません。愛とは一時的な感情ではなく、相手の将来や人生まで考え、責任を持って行動することなのだと学びました。

特に未成年の場合、中絶という重大な決断をすることは、身体的にも精神的にも大きな負担になります。望まない妊娠をした人を責めることはできませんが、だからこそ正しい知識を持ち、自分自身を大切にし、責任ある行動を取ることが重要だと感じました。

看護学部看護学科1年（当時）いまふくら な 今福来奈

礼拝説教要旨

2026年4月27日(月)

「種の中に森を見る」

国際 NGO ハンガーゼロ 総主事

こん どう たか し
近 藤 高 史



昨年5月、アフリカのザンビアで大動脈解離を発症し、飛行機で南アフリカまで運ばれ8時間の手術を受け、7月に無事帰国することができました。医者からは死亡率90%以上だったと言われました。

アフリカのことわざに「種の中に森を見る」というものがあります。皆さんはアボカドの木を見たことがありますか？大きな木は10m近くにもなり一度に100以上の実がなることもあるそうです。

多くの実がなる植物も元は一粒の種です。命は不思議ですね。あの一粒が地に埋められ、長い時間を掛けて芽が出て葉を伸ばし根を張り、やがて花や実を付けるのです。ですからまさに一粒の種の中に森を見ると言っても過言ではありません。

大袈裟かも知れませんが私は今日、皆さんに遺言を語る気持ちでメッセージをしています。というのも昨年手術をした動脈瘤が再び大きくなり5cmを越え、いつ破裂してもおかしくないのが、今週末に再手術をすることになったからです。

もう一度、胸骨を切り開いて心臓を止め、脳に続く血管も人工血管に差し替える大手術です。来週はもしかしたら生きていないかも知れないと思うと、今日皆さんに話すことが私にとって遺言になるかもしれないという訳です。

皆さん、自分はまだ若くて、将来何をしたらいいかわからないという方もいるでしょう。しかし恐れなくてください。聖書には「一粒の麦が落ちて死ななければ一粒のままですが、死ねば実を結ぶ（ヨハネ12:24）」とあります。死んだかのような一粒の種から芽が出て花が咲き、やがて豊かな収穫を生む畑や森になっていくのです。

永遠とは、命がただただ長く続くということではありません。命が死に、また生まれ、次の世代へと受け継がれていく。そのためには暗い冬や涙の谷を通らされる時もあるでしょう。しかし恐れなくて下さい。私たちの人生に豊かな実を実らせて下さる神様に期待して、委ねて生きてゆきましょう。

2026年5月13日(水)

「なんという恵み、 なんという喜び」

日本基督教団中京教会 牧師

いな だ かつ ゆき
稲 田 勝 之



4月の下旬、金城学院大学の将来について大きなニュースが飛び込んできました。キリスト教関係の方もそうでない方も大きな衝撃を受けました。しかし今振り返りますとマスコミで大きく取り上げられたという事は、それだけ金城学院が築いてきた歴史と伝統は大きな影響を与えてきたということです。1889年にアニー・ランドルフ宣教師が家庭を解放して私財を投じたのが金城学院の始まりです。彼女はどうしても女性の教育のためのキリスト教を土台とした学校をつくりたい。それが日本のため、この地域のため、女性のためになる。そういう強い使命を抱いていました。彼女はもう60歳を過ぎていました。自宅で教育を始めてから13年後には亡くなられています。金城学院大学が設立されたのはランドルフ宣教師が亡くなられてから40年以上経ってからです。

今年は創立から数えて137年目になります。その間、数えきれない多くの学生が学び、金城学院の歴史を築き「金城の卒業生です」というだけで地域の方々に信頼されてきました。世間からは「お嬢様の学校」というイメージが独り歩きをしている感じがあるのですが、しかし、実はその根本にあるのはキリスト教を土台とした一人の人間、一人の女性としての人格、気品、誇りに対する信頼です。金城学院に入学したのであれば、ランドルフ宣教師がどのような志を抱いてこの学校を建てたのか。金城学院は何を大切にしてきたのか。他の学校になくてこの学校にしかないものは何であるのか。そのようなことを考えていただきたいと思います。

この学び舎には大きな恵みがあり喜びがあります。金城学院で学ぶこと、部活動やサークル活動、学生生活で経験すること、その全ての土台に礼拝があります。礼拝に建学の精神、ランドルフ宣教師が伝えたかったことが受け継がれています。この学校で学ぶことに誇りを抱いて金城学院のよき伝統を受け継いで新しい歴史を創っていただきたいと願っています。

礼 拝

9月18日(金)	洛 雲 海	宗教総主事
21日(月)	吉 松 純	大学宗教主事
21日(月)	落 合 建 仁	宗教主事
22日(火)	小 室 尚 子	学院長・大学長
23日(水)	洛 雲 海	宗教総主事
24日(木)	吉 松 純	大学宗教主事
25日(金)	稲 田 勝 之	日本基督教団中京教会牧師
28日(月)	吉 松 純	大学宗教主事
28日(月)	落 合 建 仁	宗教主事
29日(火)	原 田 望	大学運営推進部担当部長
30日(水)	柴 田 謙 治	生活環境学部教授
10月1日(木)	山田麻衣子	日本基督教団名古屋北教会牧師
2日(金)	洛 雲 海	宗教総主事
5日(月)	小 室 尚 子	学院長・大学長
5日(月)	地 多 政 枝	日本基督教団豊橋教会牧師
6日(火)	吉 澤 永	日本基督教団愛知教会牧師
7日(水)	吉 松 純	大学宗教主事
8日(木)	置 田 牧 人	大学運営推進部長
9日(金)	北川美奈子	中学校宗教主事
12日(月)	洛 雲 海	宗教総主事
12日(月)	落 合 建 仁	宗教主事
13日(火)	辻 秀 治	日本基督教団桑名教会牧師

創立記念礼拝

14日(水)	小 室 尚 子	学院長・大学長
16日(金)	洛 雲 海	宗教総主事
19日(月)	田 口 博 之	日本基督教団名古屋教会牧師
19日(月)	横 山 厚 志	日本基督教団瀬戸永泉教会牧師
20日(火)	酒 井 朋 宏	日本バプテスト連盟名古屋教会牧師
21日(水)	小 室 尚 子	学院長・大学長
22日(木)	野 田 康 弘	薬学部教授

秋の伝道週間（ミッション・ウィーク）

26日(月)	小 林 光	日本基督教団熱田教会牧師
--------	-------	--------------

26日(月)	落 合 建 仁	宗教主事
27日(火)	和 田 芳 子	日本基督教団東海教会牧師
28日(水)	小 林 結	文学部音楽芸術学科4年
29日(木)	田 口 博 之	日本基督教団名古屋教会牧師

宗教改革記念礼拝・秋の伝道週間（ミッション・ウィーク）

30日(金)	山田麻衣子	日本基督教団名古屋北教会牧師
11月2日(月)	小 室 尚 子	学院長・大学長
2日(月)	尹 太 悉	日本基督教団御器所教会牧師
4日(水)	木 下 喜 也	日本基督教団金城教会牧師
5日(木)	木 下 裕 也	日本キリスト改革派岐阜加納教会牧師
6日(金)	栗 原 武 士	日本基督教団刈谷教会牧師
9日(月)	吉 松 純	大学宗教主事
9日(月)	八 東 清	日本基督教団御器所教会牧師
10日(火)	小坂橋秀行	日本フリースト教団名古屋山キリスト教会牧師
11日(水)	秋 山 志 遠	大学運営推進課課員
12日(木)	堀 江 知 己	日本基督教団名古屋板山教会牧師
13日(金)	吉 松 純	大学宗教主事
16日(月)	落 合 建 仁	宗教主事
16日(月)	吉 松 純	大学宗教主事
17日(火)	洛 雲 海	宗教総主事
18日(水)	小 室 尚 子	学院長・大学長
19日(木)	吉 松 純	大学宗教主事
20日(金)	落 合 建 仁	宗教主事
24日(火)	羽 鳥 頼 和	日本福音キリスト教会連合自由・丘キリスト教会牧師
25日(水)	辻 順 子	日本基督教団鳴海教会牧師
26日(木)	吉 松 純	大学宗教主事
27日(金)	小 林 光	日本基督教団熱田教会牧師
30日(月)	落 合 建 仁	宗教主事
12月1日(火)	稲 田 勝 之	日本基督教団中京教会牧師
2日(水)	長 嶋 直 子	デザイン工学部教授
3日(木)	上 村 千 尋	人間科学部教授
4日(金)	山本陽一郎	日本同盟基督教団多治見中央キリスト教会牧師
7日(月)	吉 松 純	大学宗教主事
7日(月)	洛 雲 海	宗教総主事

8日(火)	落 合 建 仁	宗教主事
9日(水)	中 根 一 茂	日本基督教団豊明新生教会伝道師
10日(木)	狩野進之佑	日本基督教団愛知守山教会牧師
11日(金)	江 連 実	日本基督教団豊田教会牧師
14日(月)	落 合 建 仁	宗教主事
14日(月)	山 田 詩 郎	日本基督教団名古屋北教会牧師
15日(火)	横 山 良 樹	日本基督教団半田教会牧師
16日(水)	小 室 尚 子	学院長・大学長
17日(木)	江 連 実	日本基督教団豊田教会牧師
18日(金)	洛 雲 海	宗教総主事
21日(月)	洛 雲 海	宗教総主事
21日(月)	蔡 家 賢	日本基督教団金城教会宣教師
22日(火)	落 合 建 仁	宗教主事
24日(木)	吉 松 純	大学宗教主事

卒業予定者礼拝

1月5日(火)	落 合 建 仁	宗教主事
6日(水)	吉 松 純	大学宗教主事
7日(木)	小 室 尚 子	学院長・大学長

成人記念礼拝・卒業予定者礼拝

7日(木)	小 室 尚 子	学院長・大学長
-------	---------	---------

卒業予定者礼拝

8日(金)	洛 雲 海	宗教総主事
12日(火)	小 室 尚 子	学院長・大学長
13日(水)	落 合 建 仁	宗教主事
14日(木)	吉 松 純	大学宗教主事
15日(金)	洛 雲 海	宗教総主事
18日(月)	小 室 尚 子	学院長・大学長
18日(月)	洛 雲 海	宗教総主事
19日(火)	吉 松 純	大学宗教主事

(赤字は昼の礼拝です)

朝の礼拝

日 時	月～金曜日 8時45分～9時00分
場 所	エラ・ヒューストン記念礼拝堂

昼の礼拝

日 時	月曜日 13時00分～13時15分 (伝道週間は13時25分迄)
場 所	エラ・ヒューストン記念礼拝堂

祈祷会

日 時	水曜日 8時10分～8時25分
場 所	キリスト教センターラウンジ

貴重聖書展示・パネル展

日 時	10月16日(金)～30日(金)
場 所	キリスト教センターラウンジ 図書館ラウンジ

感謝礼拝（実験動物を記念して）

日 時	9月16日(水) 13時30分～14時00分
場 所	アニー・ランドルフ記念講堂
説 教	洛雲海（学院宗教総主事）

キリスト教の時間

日 時	11月6日(金) 15時35分～17時15分
場 所	アニー・ランドルフ記念講堂
講 師	サルーキ＝（クリスチャンロックバンド）

クリスマスツリー点灯式

日 時	11月30日(月) 17時30分～18時00分
場 所	N1棟前
奨 励	安達正樹（日本基督教団名古屋新生教会牧師）

クリスマスオルガンミニコンサート

日 時	11月30日(月) 18時00分～18時30分
場 所	エラ・ヒューストン記念礼拝堂
演 奏	鈴木牧子（学院オルガニスト）

クリスマスハンドベルコンサート

日 時	12月5日(土) 17時30分～19時30分
場 所	アニー・ランドルフ記念講堂
演 奏	ハンドベルクワイア
入場料	¥1,500

オルガンコンサート

日 時	12月11日(金) 13時00分～13時30分
場 所	エラ・ヒューストン記念礼拝堂
演 奏	オルガニスト養成講座受講生

大学クリスマス礼拝

日 時	12月17日(木) 17時30分～18時30分
場 所	アニー・ランドルフ記念講堂

成人記念礼拝

日 時	1月7日(木) 13時～13時20分
場 所	エラ・ヒューストン記念礼拝堂
説 教	小室尚子（学院長・大学長）



金城学院大学キリスト教センター

Tel. 052-798-0180
Email. ccoffice@kinjo-u.ac.jp